

『金ブラシ』 短角牛にかけた情熱と



えりも短角王国
たかはし牧場
えりも町
高橋 祐之さん

砂漠から始まった
短角牛の肥育

人との出会いが
農業をする喜び

この道具は「金ブラシ」と言って、牛の体を掻いてかゆみや汚れを落としてあげるもの。牛だつて体がかゆくなるからね。「よしよし」って声をかけながら掻くと、気持ちよさそうにするんですよ。「いくら餌をあげてもかゆいのをとってあげないと、肥れない」って父からよく聞きましたね。

2000年代に入るとBSE問題が起きて、世の中で牛肉への不安が高まりました。ファームレストラン・ファームインを始めたのは、この時です。「誰が、どんな風に育てているのか」っていう話ができれば、お互いに食への安心感が高まる。食の安心も伝えながら、短角牛の味を伝えたい。何もない所にポツンと建てて、本当に人がくるとのようになってゼロからのスタートでしたけど、おかげさまで多くの方に来ていただきました。

振り返ると、大変っていうよりも楽しかったですね。夢中だったんだね。いろんなことがあったけど、何もしないでいたらここまで来られなかった。新しいことをしていかなきゃ。生きていかなきゃいけないから偉そうなお金のものさしだけじゃいけないなと思います。農業することが、喜びです。それが、喜びです。

第8回「ディスカバー農山漁村の宝」が選定されました!

内閣官房・農林水産省により、全国651件の応募の中から、道内の5件が優秀賞、特別賞、優良事例に選定されました。

①優秀賞
株式会社ELEZO(エレゾ)社(豊頃町)
企業として国内で初めてハンターを雇用し、食に特化した狩猟法を確立。農業被害減少や食文化発展に貢献しつつ、エゾシカの搬入実績や顧客数は大幅に増加している。



①狩猟による生産食肉加工食品: テリヤキ

②特別賞
環境大善株式会社(北見市)
牛の尿を発酵・培養させた「善玉活性水」を用い消臭液、土壌改良材等の商品開発と製造販売を実施。



②「善玉活性水」を使用したトマト(右)と不使用のトマト(左)

③特別賞
北広島商工会「きたひろしま開拓プロジェクト委員会」(北広島市)
北海道米の礎を築いた赤毛米の復活栽培、加工品の企画・開発等により、市民の誇りの醸成と地域活性化に貢献。



③赤毛米の収穫、手作業による自然乾燥作業

○優良事例
当麻土地改良区(「食と農の大切さ」を子どもたちへ) 日向 優氏(薬剤師が挑む「薬用植物で町おこし」)

全国の優良事例は「第8回ディスカバー農山漁村の宝」
お問い合わせ 農政部農村設計課 TEL.011-204-5397



北海道からのお知らせ

道産食品を食べて応援!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、外出自粛や観光客の減少などにより道産食品の売り上げが低迷しています。

道では、ポータルサイト「がんばれ!道産食品」を開設し、ジャンルごとの道産食品の紹介や様々なお取り寄せサイトのリンクを掲載して応援しています。

皆さん!安全・安心な道産食品を食べて応援しましょう!



詳しくは、[「がんばれ!道産食品」検索](#) ※右記QRコード参照

お問い合わせ 農政部食品政策課 TEL.011-204-5427,5432



「農たび」しませんか?

道では農山漁村の豊かな自然や食、歴史・文化、生活体験などを観光資源として活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで取り組む「農村ツーリズム(農たび・北海道)」を推進しています。農村ツーリズムは、都市と農村地域の交流により、農村を活性化するための重要な手法の一つです。

しかし、人手不足や高齢化などから取り組みが難しい地域も多くあります。そこで、農村ツーリズムにもっと関心を持っていただくために農泊や教育旅行受入のための基礎知識や事例紹介、インタビューなどを取り入れたPR動画を作成しました。ダイジェスト版を2月下旬に北海道庁のホームページ上で配信する予定です。ぜひご覧ください。



詳しくは、[「農村ツーリズム」検索](#)

お問い合わせ 農政部農村設計課 TEL.011-204-6490

次号の「コンファ秋号」を無料でお届けします

次号(2022年秋号)は10月頃に発行する予定です。送付を希望される方は、右の綴じ込みハガキに必要事項を記入し、ご感想などを添えて投函してください。WEBアンケートやメール、電話、FAXでも受け付けていますので、「コンファ2022年秋号希望」と明記のうえ、①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号を記載し、下の宛先までお申し込みください。

〒060-8588 北海道農政部農政課政策調整係(住所の記入不要)
TEL 011-231-4111(内線27-126) FAX 011-232-4126 Eメール nosei.noki2@pref.hokkaido.lg.jp

編集後記

今号の特集「農業を、仕事にする。」では、道外から移住し新規就農されたご夫婦2組を紹介しているほか、就農までのステップを掲載しています。農業を始めたい方、農業に興味がある方の背中を押す一冊となれば幸いです。その他、「お酒と農の話」では、道産酒米を使った酒造りについて、毎月好評の「キラリ★農業系高校」では、壮瞥高校の6次化の取り組みなど、北海道農業の魅力たっぷりとなっていますのでぜひお楽しみください。